中村俊定文庫
文庫 18
515
1

宝玉文庫

序

一所方角にて世小知る小冊子
なりとは書流花の慈父の少年あり
しを予往き問ひしき見る毎かく
実校せいとのしんなるおの
絶小風流の客小なるとて其言ひう
ちしりとも見免ぬよて紙幅加
学乃人の為りは小説法をしん

志ありて年ごとに京の句を
かい集めて西しゆくに申椒堂梓
行せむとす今ふさるいとなかく
名歌を詠るとも後もはかりなく
さる国の解なしかくて其後小
泥滑名示方角集に影し社中及び
同志の吟已の紀行中乃句をも
後小補ひ添て需に應ずるなり

集武蔵を集て東部小紀行を
編り社中に寄
物りしのめやもかんあるを此時
諸出を動合し或は紀行乃人々
尋ねて凡小出之際武蔵より西南
小卦中西より小と歴て東に帰る
方角より三部を一輯る示の趣意
句より名示紀句めを句

ものき不ハ録せさる名所ハ書かるへし
頭の所ハ白圈を記ス故名所詞と
不記ハ私の為不又ハ和訳材果ハ
類也名所歌合ハ内ハ天象陸
物植物生類ハ名象の法書ヲ
譲りて闕くハ只不得ること
ハ悪を添ハ出ス又歌合ハ外
小説俗の良材となるあるを待ち

鎌倉ハ鎌ハ殿ハ殿不深ハ也是不ハ
是悪を不添て玉ハ作ハ名武
宗盛の昔ハ今の人を知ハ深
八化時代の年歴ハ微ひ号日早ハ
月ハ花ハ拾遺ハ古今法流を撰ハ
侍ハ載之又西ハあるて不載ハ
又載へき所ハ漏ハ多ハ古今
小高ハ所高馬ハ馬の温ハ作者の

本言之書不向ふ遠ク改正
告のごとくしかるべし
安永五歳夏五月

一陽井素外述

名所方角集 乾之巻 目録

武蔵 初丁　相摸 三十一　伊豆 四十二
駿河 四十三　遠江 五十　三河 五十三
尾張 五十五　志摩 五十七　伊勢 五十八
伊賀 六十七　近江 六十八　山城 八十一

中村文定文庫

○武義

江戸　箕深　元庵子　文七元結　歯磨石

江戸より浪華也　花の桜　大坂　梅翁

花乃雲　蕉八上野　芭蕉

蜜柑　[illegible]　文角

六何　沢庵　[illegible]

玉川　小列　公太　貞佐

武蔵野と見ぬ人多し江戸の月　紅波
江戸一乃絵ハ京のこハ和ゆと　宝馬
咲陽ゝ月の武蔵乃江戸桜　西外
いきのまゝ米酒江戸ハ秋　探舟
入おそ咲隅川や江戸の夏　赤外

○眺望の富士

名月や富士見ゆること後の町　古赤
半分ハ江戸ハ月の也不ゝ見の雪　立志

富士とゝ見ゆる雪乃力かな　蓼狐
島遠し一尾眼ハ届く秋の不ゝ　梅郊
夕立やたゝく明るき西ハ富士　春郊
富士ハ消ゆゝ忘れとゝ大晦日　宝馬

日本橋　京都市一の魚市場之

短歌や旭まゝ川乃乃酒屋の春　英角
万年やたゝく来ぬる日本橋　寒和
積ゝ雪日本橋ゝも秋乃雪　蓼狐

淀乃渡

たくらもや蓑を淀乃ふらしもる　一鼎

○雨降の閑

ほくきぬるもやもの笑ひ外　貞知
春くれもの雲ゐの笑ひ夏法師　免言
見おろすや雨降の岸乃紙帯　蓼雨
ゆきあるやや果ハ高の笑ひ原　貝舎

山王社

社地陸て日よし陰より夏来る　素竹
猿江ハ至蓑帰り見る山　猿　花笠

○狭山の池　首ろ〳〵
小田町内蓑屋敷屋敷のよし

花白し菊小狭山ゝ池ゝも　梁山

蓑ゝ渕　汲池の内

八梅陸や蓑ゝ渕乃ゝの芯　花城

芝浦宿　金龍寺

芝宿をとをしへぼたん哉　蓮之

植木屋小茂ゑや日出る宿屋　風蓋

白雲に梅林乃夏やなつかしや　弟梅

芝浦やこゝ海くさしとこの春なし　芝水

眺望

さくらや花地の御堂海おし　蓑狐

青松寺

若葉の那保山乃猩の書松寺　京外

仮会神明社

鯖海老おゝ八坂勢ゝ芝の神　風蓋

増上寺　十八檀林寺一世

寺原江戸紫乃花の雲し　蛇旧

芝さゝや仮求浄土丸縁納涼　漣家

魚籃観音　班竹笠小魚の入るゝ袖たゝ天の羽衣とおもふ

只軒めぬ我ホこの岩乃隙ゟと　平砂

芝春日社

江戸の海やうさけ尺鯨背　吐風

芝浦　芝青　牛車

雲ゟけし海士の刈藻ゟ芝青　松京

芝海老の髭も稲ホ出てゟふの月　矢佐

芝浦や車のゝへ初うすみ　起波

芝浦やりぬけ後次の遠嶽　貞知

鉄炮洲

夕千鳥影よむ声や鉄炮洲　李窟

細雪　浦村ゝ

月のすゝ城のはめや細雪　曲菴

梅枯や月さゑホ凄き細一又　梅寿

書かなしや笠とる時も清水 太布
さらぬ火の田乃いさりほたる哉 素外

伯耆社 日石にあり 芝

栗毒小ぶ也雲ふしの月 沾洲
おぼつかな小屋めぐる田蛙 汀沙

古池

新大橋東仙平吉州深川の庵の内なる
ちいさき池の古池のほとりにあり
あるとも云

古池や蛙飛こむ水の音 芭蕉
古代のいろふも古き水の邪 蕉狐
古池乃昔語を聞く蛙 亀文
小雨していとゝ古ひや池の面 行露
古池ゝ云ふ事なる事の掃 深夏 亀洞
古代や蛙若やく庭の外 素外

深川

深川を伏乃小舟を伝の花 一晶

八幡社　日下　宝賀園

角力あるあきやまつ一夏の園　雀尚

三十三間堂　浩のうしろの大矢数

苔のはやや矢数さびたる色　再賀

君の代や見人も女も大矢数　素外

洲崎　矢戦天社　芳麦園

鏡のきむすさと刈むや菖蒲の葉　浩徒

干ぬ時もよしや洲崎の夏の海　春郊

秋風ふ波のよりしや洲崎芳麦　志園　市仙

名月や細洲さえもいろの浪　洋家

末場　枝木堂場之

橋蓼ふ苔末の色咲ふ永昌　宗端

扇橋

秋風の波ふ扇橋　西外

羅漢寺

紫陽花の流るゝや五百羽　千梅

のゝけしやなくひも交る五百体　呉夕

風涼しるる花藤の遠ながら　過橋

ほゝまれ帰やゝ花藤の影　素外

亀戸天神社　東安楽寺　反橋　茂蜆

新地みもかくなるものの梅の核　梅翁

御脚しるる赤茎めし飛大根　米仲

反橋小言やかゝらむ茂の花　春郊

柏もや池も亀戸の春乃多　呉竹

花梅や宮千籠紫乃枝　社　紀亮

花松や石茎も神もゝ留　校静

奥ゆかし外ゝ八神の川蜆　素外

梅屋敷　枝く地ふ屈曲して外形の形あり

白雪ゝ外形の包むや梅の花　嵐雪

只の日ゝ月ゝ梅屋敷　柳居

命しぬなのもと梅やゝき　春来
けり梅の尾さきや雲ふ三月　涼佛
風雅あるを俗なる書の梅屋敷　春郎
香ゑ詳る人や外ぬ乃梅の優
雨ちん〳〵そし若ふの梅やさ
ゞ
ゞよさゝ注度の梅屋敷　呉仙
梅古一さを元二年と就の類　呉就
春秋浮く暮る家さしや外梅　風堂
ちゝ波や匂ひ渦ちく風乃梅　扇良

霊なりや罌粟のひとりの梅の中　角扇
雲ぬ知多小奥あるを梅やゝ　紀露暁
名ゆゝあ梅や　蛇枝附ま　宝一
鶯小玉乃知多あるを梅ち顔　百丈
ぬよく〳〵化ちり梅の古やき　素外

吾妻ぬ木林　吾妻大橋択　連記抜

若梨ちを思ひ増〳〵神の妻　平砂
木陰ちきや石小木ゆく梅迄し　小知

平井聖天社

ゝ来秋や大根の中乃ちやつ神　平砂

中川　法実不動尊

眼小鋭きりゝや冥の夕日乳　如雷

菖蒲　菖蒲茅▲武総の説江戸砂子に要ー

茅の一花や雨の菖蒲西乃西東　祇徳

干茅や菖蒲の根や菖蒲　蓉狐

菖蒲八沼の影堀や菖蒲茅　丶

憐ゝ来なくふむや若葉雪の雪　五泉

秋葉社

実秋の恵ゝ去れ川神の猿　貞川

牛嶋　奥福寺

牛酒の牛見分る素下雪　由林

牛買ふ赤も眺ゝ多かすゝ　梅壽

鯉ノ子ノ泳ぐ牛洲の芝垣　久表　軽舟

牛御前社　同所

初午のあるれば牛の宮ノ上　柳居

白髭社

神宴ヲ四月七日　芝水

隅田川　郭内。冥府の里　後ノ二月名あり

いさの屋ノ浦ノ海の舵ノ白ひゝ郭内　京　鳳室

舵付ノ貞室却ノ人ノ三ノ名　伯德

角田川や岡の屋形の三ノ三ノ私　古　山夕

海苔ノ三ノ名ノ名ノ名ノ名ノ郭内　丈角

田植ノ三ノ名ノ名ノ角田川　尾張　越人

夕月や枝ノ名ノ名ノ三ノ川

ノ場ノ名ノ名ノ角田川　亀翁

水ノ上ノ名ノ角田川　尺州

名月ノ三ノ三ノ波ノ三ノ名　柳居

もち飯も一年かきやまぎれ川　渭北
埋木や江戸をけれを角田川　乾十
瓜の皮遠くもすまぬれぎれ川　采伸
白魚ふるめ筋目や隅田川　蓼狐
洲よ人の泊千鳥や角田川　春郊
柳ちる蘆ハいかをすぎ川、
鶯一つ秋とゝんせ竜ぎれ川　梅翁
すゝ川柳ハゝゝゝ色ハ色ハ　貞知
下戸なゝぬ雪ゝんの影や新角　貞川

ほのぼのと拾日和やぎれ川　一鼎
花咲て酒の粕女や角田川　五泉
鶴ゝぬ色ハ位やすゝ川　紀亮
代川の新酒吹さのうぐこ色　吐風
祝ゝ色角田河原乃秋の月　竜言
柳うゝ音川ぎやぎれ川　吏礼
白魚の瓜ちりぬ新角　百丈
ぎぼ埋や隅田の柳乃一葉川　不逸
我地ゝ飯ハ合題この雪ゝん毋　恬我

芦枯て秋より月や角田河　秋方
すゝき穂出て芦方乃郭公　汀沙
ほとゝぎす例ゝすゝき川　爸梁
淀笛かなしてさのすゝき川　蛙鳴
菊作る家も河ぞやこゝ多　若秀
海小入る流迄やさすゝき川　二歌
名よ呼ぶ今八吾妻の松とう　彩多
笹一遍ゝ葉山子ふ子ゝ郭多　仙里
蛙鳴の外乃名所すゝき川　蓉翁

ゝ花のうゝこ多るゝよ郭人　年月
春をゝまゝ白魚ゝ多ゝ　貝舎
ゝ小ゝ多ゝ今ゝ月の月ゝ郭多　花蓋
月月や角田河の水も夏ゝ　素人
蛙の声柳小ゝ笹ゝ角田川　雨井
五月雨に橋場の傳ゝ菜ゝ　平砂
角田川ゝ若葉ゝ枝ゝ武ゝ水ゝ　毛線
五月雨ゝ宝ゝ橋流ゝすゝ川　雪言
すゝまゝゝ笹ゝ角田川　素外

木母寺　梅若塚

木母寺の名あるを今の月　丈角

なみだ吏子が墨の雨を雑の梦　〃

梅若塚　法名　南無阿弥陀仏　貞佐

名月や角田河原の萩乃宿　祇徳

江戸うちもたるく木母寺の秋　春来

木母寺ふきうの花は遅し　紅蓼

雲も鳥人いう八念仏堂　貞知

又ことし〜原せなの角田川　水樹

猶も月小三味の秋乃芝高仏　洋家

綾瀬川

ゆるぶ井戸まちて也の也川　飛鯨

白魚八波の絶絶を渡る川　花城

○菴崎

菴崎八波の名所を洗ひ鯉　貞川

名所句集 上

新田や氷の下のいけらの魚　沾徳
菴崎と風のやまとや帰鄙　寛之

三圍稲荷社

名ゑや四代三圍の神なれハ　丈角
原ちゝやまとの国も神の秋　呉胡
恋小四郎姫子社地のこめうや　貞川
ふくゝ井小神の玉名新涼し　呉仙
小きぬや社柴三囲幾めくり　亀鈴

両国橋　昔八武総の境なれハ此名あるとも
納涼　白魚

橋永上跡の梅ふ義ふ　杉風
茶屋くゝ乃灯ふ赤ほ　春来
五月雨や白魚ほ白魚ほ　可主
白魚の腰ふ濃き　春郊
梅仮乃下絵ふ　菊人
價なし白魚の秋乃名惜ひ　沾涼
白魚の廣さや一里の胡麻ふ　雀歩

両国や人ハ詰ゆ乃大きゝみ　赤芳
眼ハ涼しけ景ゝ乃ものゝ茶　雪見
憎まセて江戸ハ涼や花火哉　蹄蓋
涼しさの價何千両玉ゝ　西外
せ辞ゝ棒ふきふり物納涼　赤外

同所眺望の花波

嵯の峨くさゝの山やを念佛　大坂　角
宴士ハ落ちんむ山ゝ花の花波　俊ゝ

四季ゝとふ星くなゝのむる清ゝ水　古　祇徳
色ゝ枯やかなゝ花ゝつゝ山　祇徳
一歩庭ゝの蓮ゝ花や清ゝ水ゝ寒　蛙鳴
木ゝしゝや不二ゝと言ゝ清ゝ山　赤外

浅草

紙　西吾

紙や浅草川ふせ　御稜　言友
釈ゝのゝ山沙稜やむ清ゝ　久表　横川
ゝ車　鶯啼ゝ清ゝ　玉圃

清涼寺　釈迦堂　五信子　揚枝

石の花り飯やあらけむ冬菜屋　艾角
あれとなる洛北京市罷屋　貞徒
清竹や山奥山八人乃まち　風巷
春ふくむ一名の米川揚枝廊　弗外

久米平内像　日境山

去なんら夜と冷まる夏花月　旧室

嵯峨の池　妙光院前にあり

孔雀原の月も冷し嵯峨の池　貞知
清の梅やうりる嵯ういけ　水樹

待乳山　浅草にあり

教はきき千稼ぐ毛の毒穀杜宇　艾角
無紙尺代飯小麦なし待乳山　祇空
春やけ多芋代すりち山　春郊
夕すゝこ上ろろ雨後の芋山　五泉

春雨や草木小綺麗山　紀亮
夕声の鶯遠也まりち山　芝小

濱茅の原

砂嘯哭て濱茅の原小丸須也む　栗庵　雲渥
踏初ん濱茅の原乃艸の名云　呉仙
虫鳴や古ぬし濱茅ち原　五泉

吉先稲荷社　田楽

吉先小一初夕かなくほくとおる　蓑狐
吉先や江戸のちの道の川社　貞川
おくれしの豊ひ戸神の名京色　五泉
田楽平壇の夕ひなる交狐小　軸旧

新吉原　五丁町と云　山屋豆腐

京町の猫百ひ号揚屋町　貝角
大夫ち恋より京出くまるけ　氷花
万姫や猫の中のけうこ　蓑狐

よきりや吉原更て桃もと　棄水
揚屋めく大つと出てけさの秋　横川
よし原や長行や更て峠越　佶京
見る人の迎り灯や能や五丁町　絶亮
夏京色何玉八あり仲の町　恬我
人てのやせよし原乃夕櫻　素外

正覚寺　紅葉

男女のあまと打交り酒々戯々とうて

世辞と鬼のうしろかな　佶峩

千住　川魚を売る市あり

別れ〳〵の吉乃赤らやの信州　素外

市茶の香　昔八井あり今八流の名を

ほそ〳〵と流れの色に茶の水　春来

牛の目の雪のとまり〳〵て　平州

宝ける乃庵や山茶の香　宝一

蕨茶屋とたづねたる清水　南廉
蕨里を細谷川の流れ茶乃ゆ　吟松

神田明神社

神田の宮を刈穂のかざり菓　横川
幟立て神田の神の地元寄　吳龍
芋屋や芝濱村乃神の茶　乙雄

湯島天神社

梅さくや下谷の東風紙の宮　龜齢
いさぎよ小汗八湯島の男坂　一巴

東叡山　寛永寺　上野　忍岡　忍の森

花見客やゆいゝ東叡山　加友
芝の雲上野ゝ櫻咲ぬ　一鉄
松杉のゝ地とも花を海と見る　雪光
うぐひすの花ぬ浮ぶ谷の町　米仲
義小僧の初多静ゝ上野山　春郊

夕霧や鳥小さく紀上路にて　梅寿
岩もみや雲の上路のさくら　吳夕
さく花小風紙いとゝ長屋坂　吳仙
嘗やゝ上路の谷乃落水に　雅郊
後人も幕を思ふこの岡の　祇叶
花ゆ酒もとゝて町の上路山　常梅
人多もさうもの茶や上路山　如鏡
花八重桜ゝ九ゝ東嶽山　雀部
胡蝶ゝ上路八京乃白ひゝ　居香

作ゝ中ゝ上路ゝ七ゝ花の幕　素外

両大師

慈恵慈照の両大師

人多ゝ多ゝ四ゝ大師の春　梅　嘉治

不思の池

葉物津の池氏中條に弁戦天社あり、

糸小菊の新　鯉や池乃蓮　梅寿
蛍の離や小ゝ菊ゝけて蓮の奥　一巴
風ゝ吹ゝ家ゝ葉ゝ蓮の上路山　何外

蓮の花や白地濁りの色　平砂
不思議や卯月の蓮乃深山桜　青芝
旭さす思ひ寒新乃蓮乃蓮　二郎
蓮の葉に玉の露も匂ひ色　午月
深山や蓮のむしの鳴ぬ山　阿蓼
ちのちの蓮枯果て鶯鳴　益梁

。向う岡

隣りの向う岡の花乃邪　平砂

月の花小向う岡やけさの雪　卜人

日光里　太神宮　ちよ投

杉の乃と神やく久日光里の雲　不釜
異き見れ光りてあり人神の恵　平砂
光り迄一乃清すう方成くしろ　久表　雀舟

同人丸社

七夕乃ながの御乃神せうこ　蓼松

[illegible]　春郊
[illegible]　吳仙

[illegible]山　梅

[illegible]　春郊
[illegible]　梅壽
[illegible]　校靜
言岩　不釜
[illegible]

五子稲荷社

[illegible]　雀舟
[illegible]　貴志

常山

[illegible]　佳城

深井

柱本屋伝兵衛方にはじの大木あり

みち程や深井の里の古杉戸　春郭
春の日は傾く程ゝ遅けれ　雀子
いろ〳〵ふきとる深井のはしら　細風

四ツ谷　菓　草花　蕎麦

四十ぬて四ツ谷成尽るとの雲　嵐雪
秋風ふ四ツ谷乃嘉や咲れ菊　古山夕

戸田川　仮　桜竹

主〳〵重代戸田のあるじや杜宇　子英

氷川神社　武州一の宮也大宮ハ武州ふ主

月あ〳〵十八町乃森の奥　素云

熊谷寺　敦盛碑

蓮花蓮ふ法の笠ぬ　不角
ちるはしや芳八歳今ゝ又ゝ

○小湾の池

小舟こぎ行の尾さき行く池の月　軽舟

○義経堂　芝のむしの声　川越平潟池

田植めやいつ見つるとも君と方　雪言

秩父山　札所巡礼

たつとさ戸町小さ子ひとつ山　宗陽

○武蔵野　逸子

武蔵野に生まれ出でし雲二の雪　德元

たつ屋敷武蔵野てのむ菊の酒　雪れ

むさしみやこの法くぬ法ぬ　いせ　三嵐

武蔵野や富士の雪のうけ不　丈角

原しきや武蔵野に秋這星　古

思ふ人武蔵野よりの原くらふの月　秋色

むさしみやふくて細し紅葉　古　佐州

野も見ず空て明るうるの月　佐涼

武蔵野をこの秋くれぬ雪ぞこの　虎伏
むさしをぞ雪ぞ又うし虫の声　紙波
若草や むさしの八ヶ岳の雲　梅郊
武蔵野を来ハ地を掃ふ雲　春郊
むさしをや入日の残る雲雀　、
武蔵野の月の雲ひ雲雀　梅寿
むさし野や秋の雲の雲　梁山
雲ハれ雲うれてもあり　雅郊
むさしの小幡の若菜　花郊

武蔵野の月ハ雲ハ雲ハ　丈菜
武蔵野や月ハ雲ハ雲ハ　吐風
むさしの月の山ハ　左蓋
むさしの月ハ雲ハ雲ハ　素人
むさしの月の山ハ　十数
武蔵野や月の下　宝雲
武蔵野や入ハ雲ハ月の　千外
むさしの秋　五陵
むさしや月ハ雲ハ　津宝

むすこ　みちの国一節の白川　松架
遠山の名や雲の峯　霞嶺
武蔵野を富士まさりする月の色　卜人
神さぶる世に聞ふるし玉の月　素外

○堀金の井

黄昏の堀金の井乃暑かな　貞盛
堀金の井乃きりもの暑　乙雄
六月や堀めきこのなき世界　扇象

○玉川の里　調布　鮎

鮎八膳小一藤石狩乃也ゑ一節　貞徳
玉川や古ゑさらぬ春の雪　来仲
菓子や武蔵玉川　稼屑　再賀
寄解や玉川の名物ときき　梁山
玉川の玉ゑ雑なし秋の月　風麦
玉川や水の外ゑ玉乃鮎　素芹
玉川や月ゑ色もちし　臼　花徐

玉川の玉はそよぐ葉　如竹
川清し　鮎の住家も玉の井堂　秋色
糸遊の清きをめぐる玉の鮎　乙淵
玉川や春ひさぐ人　鮎　鈴　赤外

品川

品川も連の路しる春の雪　黄角
京時雨　品川海の雪の月　亀翁
品川も九品の数や月と雪　寥和

義他の〻俳聯をもて
武蔵野とも雪堂とも名の月　作冊　鬼貫

油の浦

閑涼し　油引るかくるる高帆行帆　年月

沢菴禅師之廟　東海寺

なすき沢や沢菴漬乃石一つ　仙書
ちるもうらもなくて散こるる名残　蓮之

御殿山　猿

八重咲猿ゝ山乃奥ゝ度　何外
さくら花ゝ海人の名ゝ高山　素人
咲猿ゝ佐久良を山の夏佳ゝ　二龍

同国不動堂　熊野権現　猫結の滝　大
古来の名所なり　俗　栗猴
引伸す俗ゝ国の風流し　平砂
哺芦

海晏寺　古来の楓多し

伸の月紅葉ゝ海晏寺　二龍

大井村の猿　西光寺寺号あり

花の老枝も枝佳ゝ大井お　佳徳
朔月や川なし大井古の名　山夕
川星の大井紅葉花おる　佳例
雨も何空ハ大井のるさゝ　佳風

殆の市林　殆石八幡の社地なり

大うとの秋乃別れ也や殆の家　百里

○荒蘭崎　友秋浦に多し

ちるもの小舟こぎ寄や荒蘭崎　老牛

六会渡　赤石藩に有る

菊子渡玉川渡や船ちらし　春来

大師河原　平間寺

胡風や舟も沙弥供養ちり　和雄

舟てふ獨結ひ極その河原菜　桂坊

虫の歯小梵字よ歌をまもる紫　平砂

雀見　橋　傾城

ふ新や月ふ月ふ雀見の歯休め　貞九

金川岱

芝浦八景や移るし杉重舟　曳尾

杉田　梅　梅干　海嵐　海雀楊

杉や見梅乃ちやゝ丈高月夜　佳峩

一ゝ八半八窟や移るし杉ゝ　花莖

傳て平梅ふ杉田乃自ひ　春章

あの弓丸旬も杉田の梅咲や　敬之

金澤　能見堂　瀬戸の橋　八景亭

やあ海ゝくゝ夕の分の戻　梅翁

金戻や夕ゝ家の間乃橋　宝ゝ

京色八橋の宮舟や瀬戸の月　汀汐

金岡筆松　日丞

塚風や杉ゝ八ゝ筆松　梅翁

雛形の筆松杉ゝ　宝風

杉の根小袖梅ゝ清ゝ　春晃　春晃

下駄や杉ゝ宮者さの梅所　雪嵐

筆とりて乃ち小源八　松の子　恬我

称名寺　同下　青葉の紅葉

山路の行くさなりけを青楓　曳尾

○相模

戸塚

稲塚乃戸塚小続く岡の茅　英角

茅ふくや松の戸塚の遠入口　紙空

去の物ゝ一蝶　英

鎌倉の節句を

鎌倉も小弱の戸塚海苔を　柳居

○鎌倉山　星・星月夜　海鏡

鎌倉の名は撫でや杜鵑　京　原松

豆腐や宮の御謂ひ鎌倉　吉　青峨

鎌倉の記しかく小四月か　乾什

鎌倉の名さくらの花月の雪　甲斐　墨雲
鎌倉ふ百の門ふ掃てて鶴が　田社
うかぶ蓮ぜ鎌倉山と夕ふ香　京　墨村
鎌倉八幡て花あり初松風　亀齢
鎌倉や十万の武士の花　雲子
鎌倉や鎌倉山とかんこと　水樹
鎌倉やあもと丈後初月と　宝言

○雀の園八幡宮　雲井の雀　銀雪

何代の玉まくらそ乃宿の跡　梅翁
其幹や銀杏かちぬ千枝の秋　亀翁
涼しさや筑の流れも玉の下　涼帝
春風や十万ふ涼女宿の園　汀汐
所代歩月の弓清るの園の雲　赤拙
幾春も初めや為の神の宿　探舟
松て照九や宿の園乃春　玉園

雪の下

鎌倉八夏さくら雪の下　乙由
宿とる花の雪の下　若香

燈ろう

消て未明むらし八雛の燈ろう　漾家

建長寺　侘柏の大樹あり　西掃岌密し

志川さくら寺八夏書の筆ぬる　涼帆
下宮小世の苔もものし建長寺　亀仙

みそ桔や不得もなき建長寺　素外

松ヶ岡　東慶寺　尼ちし

鐘乃こゑ又見まく保　松ヶ岡　菓院

長浦港

利国稼父さま富小なる　一稜
茅葺小弾丸さまよ初松茸　拓波
白鷺の獨も雲とる世界小な　涼帆

谷

谷〳〵や世を忘るゝ持扇　梅翁

風雅憂風はさうこの梅ゝ谷　但る　回山

自しまの谷も谷有し梅の谷　徳之

旅うゝ〳〵ふやゆ月ゝ川あるを　月成

かまつゝゝ梧桐紫苑て霧ゝ谷　蛙鳴

山花を注薬内ーてゝこの谷　素外

渭川　青紙短冊ゝ張と書セー示

堂次八百のなかを　渭川　梅翁

小原紙ゝもなめらやるつむり　春来

弦月や素一付のなめゝ川　素外

大佛　堂宇なく陽仏し

名月八南紙得を仏頂珠　嵐雪

光明寺

鎌倉や弦ゝ十枚の足目枝　仁涼

寄せ来る波の花の屋　只大

稲瀬川

夏くれぬ月も宮の森稲瀬川　花城

由井ヶ浜

朝霧小一の雲居やぬけとる　史南

片瀬　鵠沼　日蓮上人法難の場所

雲の間風にうるる方や片瀬川　大坂　玖也

首の疵八稲荷の森あのそる史附の　木節

○江の嶋　金亀山奥院寺

江の海や月は沖の汐干貝　史南

江の海や月は沖の汐干貝　万立

名月や波の動きも金亀山　龍仙

接かるも抱のもるのまに　二疋

女体みてまつ也奥院梁　小外

岩崖　景

石の雪乃波白岩戸丸燥ちゝ　竜文

魚板石　景

伸弦折よりる波や魚板石　宥帝

魚ゝ乃中翌板石小掃深波　午月

見の浦　景

今よりて海松布の春見う浦　了雲

小栗塚　友信寺

已頃は　春の生ゝ初遠　素外

○雨降山石芋社

三月や雨降山の納ゝ　平治

高砂（スナ）

[illegible] 加[illegible]ふいさう仏　土朱

鳥うの面変ら　出下宿を鳥うの石宿河原に西

ら[illegible]河原今八[illegible]し石の肌　鬼ゆ

よい男[illegible]て手[illegible]し鳥うの石　貞佐

千里[illegible]石岩[illegible]や[illegible]鳥うの石　曳尾

[illegible]ら[illegible]鳥[illegible]泳の井の秋　千敬

大磯

[illegible]帆行船[illegible]ら[illegible]宿の鶯　春来

鳴立沢　菴に西行　不相の[illegible]

鳴[illegible]ら[illegible]ら[illegible]何よ[illegible]　三[illegible]風

[illegible]の竹の沢ふ[illegible]鳴立如　蓑狐

[illegible]ら[illegible]ら[illegible]秋乃[illegible]　涼俳

[illegible]の鳴立沢や　秋[illegible]　素行

枝打沢鳴立沢の枝打こゑ　曳尾

鞠子川　西白川に

鞠子川　又いろはの形や帰るとて　宗祇

あらしふく帰けよ鞠子の岩ぶみ　由吉

水とけて岩入さるやまるとの川　宣安

苔ふかし次るけ行や西白川　お拾伝　故道

黄瑞中村　芳瑞寺の信仰

ゑゑ見ふいふ四ふやゑ瑞星　象山

小田原

外ゝ帰小田のさりはやみ玉梅　素水

長寛山　伊豆寺

ちるなく宮ゝ帰る鶯　書来

軍雲寺　宗祇墓

軍雲寺名は三ゝ字さ也　只雪

寺師ゝ家花の桜乃匂ひが　同女

[illegible]の雪ちらし　[illegible]空
[illegible]の無かる墓とし　西行

温泉　七湯つゞき　地獄　芦の湯こゝ

已さく城嶺小似[illegible]　嵐雪
武蔵八何山嶺乃湯小煙む　洁流
湯の山や[illegible]　洁洲
甲斐なる[illegible]無うゝ責杜宇　貞徒
山中小住ぬ月和や湯湯書　悟我

[illegible]　半のゝ人[illegible]あけ石あるゝを
おまゝ[illegible]ゝ[illegible]や夏木立　蕉百

双世山　下野ニ男体の名ふあり

ほゝゝき[illegible]又ゝ[illegible]ゝ山　[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ二ゝ山　芳炭
稲妻の[illegible]ゝ[illegible]や二ゝ山　柳居
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ山　[illegible]

[illegible]二子の小僧 [illegible] 久吳
[illegible]二子の山 [illegible] 沙原

○箱根山　神代杉　挽臼　山椒魚

京苦[illegible]の[illegible]の小四京へ　鬼貫
[illegible]や岩[illegible]箱根山　四方角
[illegible]の[illegible]就[illegible]原　陳寥
雲[illegible]から[illegible]稀小山の色　素外

○湖　[illegible]の[illegible]　[illegible]と賽の河原[illegible]

[illegible]や[illegible]箱根山　鬼貫
[illegible]地[illegible]乃商[illegible]節や小秋[illegible]
[illegible]や[illegible][illegible]二子の山　涼帥
[illegible]や[illegible]　石[illegible]　[illegible]梁
[illegible]日や一[illegible]　[illegible]の[illegible]　素外

[illegible]　四方
[illegible]の[illegible]　涼帥

念力の花咲せやう岩躑躅　市尾

御関所
笠も声ばかりの秋の蕎麦　虎彦

○長柄山
足うらを向ふ腰うら杜宇　子固

○伊豆

○伊豆の根　○伊豆の山　椰石

石切や伊豆の山の秋桜　義延

松の秋の関　佐渡の若葉を流し和

かぶ畑かけし行先玄蘇　三郎

松蟲

形畫や夏炉焚せる不の字型　こたゝ

○三嶋社　池　鮒鱒多し

千年経苔の生たる神鱒　寒葵

伊豆三島加茂の蛍の小蠅と成て　孫来

千年経極　後所へ成る程に昔千年経し

千年の小竹堂ひや稿の花　才敏

八丈山雪　行徳

八丈島伊豆の内なる事あり　宗陽

○後河

後河驛　茶　竹徳　後河　菓子　菓子の名あり　玄蕉

後河の後や花橘小菓の白ひ　柳居

後河の後小菓に藤さてや杜宇

主眼ともよ芦多保乃葉摘堂　三橋
袖の浦や影摺〜の夢の鶴　陸奥

○富士山　三国連山　八葉峰

えぞ胡の月ゝ月のかせ人富士の山　宗祇
先の月三ゝの〜いと高ゝ不二ゝ見堂　貞室
聖ゝ〜て三百先ゝ見ゆ不二の雪　京　紅舟
烟みも煙けゝ白ゝ富士ゝ見堂　徳元
芭蕉やあゝ旅の山山陽ゝ山　露沽

宿〜ハ不二の高中を松のを　佳徳
不二の山海ゝ見ゝもなきなめ　湖春
眺かゝゝ付や弟〜文章月見ゝ　芭蕉
隆屋や限ゝ雪ゝ不二　洞和
かゝ月ゝと秋の空なる不二の山　鬼葵
いつもゝ雪ゝ空ハ降ゝ不二ゝ山　、
白牡丹不二の横顔ゝ白ゝ色　山夕
涼ゝ〜はめて不二ゝ見ゝ向　三風
林ゝ富士ハ空ゝ秋の雲　、

不尽の山に三月七日八日かな　京　信徳

夏初めて雪やとゞまる不二の山　京　北枝

雪消て富士の根ばかり雪肥ら　京　其角

不二の根ばかり雪の山　嵐雪

富士いさ山の掃かせんなの月　京　支考

名所問て新ふるゆき花壁　古　佳吟

言ふて名ばかりもなし秋の山　不角

富士の雪や不二の根世界なるべし　巴丈

よし野の山の雪のもの　信徳　乙由

富士見ばかりの雪の裏ふるけるかな　梅翁

脱ぎ捨て不二八ツ峯こそ衣　貞徳

秋の月不老といふ名ふ尼　卜尺

清仏ふ不二の根ばかり　柳居

富士向ひ時雨ふるとの小半　心泉

小風の不二やさなつの稲　米仲

不尽乃雪星ふ消ぬ梅花　涼佛

月迄ひ不二ばかりよるの日くれ　〃

富士の雪ふかく積く花冷　梅郊

初雪やまのかなたの富士の有かな　寛文
青葉若葉大日如来小雪の山峯　江戸
かやうと火の不二ふ面くやゆゑ京を　寛化
富士ふ眼れ侍くく人の見ふ　東道
ふるまよ春のうしまよりも不尽の雪　賀茂　千代尼
なる州や富士の色雪はかなり　平砂
不尽のふもとうるる梅月時雲　蓬百
本かしやとハ漁の夜不二の雪　素堂
不二ふんせうく日ハ入うらう小六月　宣旨

めくる今ふ時雨も尽うり不二の裾
本らしや不二ふ面子の陰　烟　笠松
早乙女やふもとの裾ゆて麻子絞　律家
紅うしたる月ゆ不二ハ雪　梶葉
一ふ富士見うる後ふの春苗子　宋帝
ちくうやはくはるくの不二の山未　玉圃
うなうるやゆ一山ふ云かうし　秋方
四方ハ花ゆ之紅うる欲す不二の雪　志外
あるゆ時雪の旦ハ不尽の山

足高山　砂こるゝ

初雪や足高山のうらかゝ　平砂

○深雪の原

深雪原や雲ゝ水香ゝ月なるの夜　兎爽

○富士川

不二川や月なほさふ秋の夜　兎爽

○田子の浦

田子のうゝに打よせ不二の白妙　維舟

松明や藻塩とぶる小舟不二　三玉風

不尽の新一歩ふ田子の浦　文果

田子の浦も打曇て月雨ふる小雲ふ　露陵

○三保ヶ崎　浦　松原

不尽見し風ふ時雨ふ三穂の浦　仙雲

袖ふ残る田子ふ雲や三保ふ崎　曲菴

不二ヶ嶽三稜ヘ清水より社家　柳居
松の雲元帰ヘ清水の三保の茶屋　麦郎
苔乃秋毎ハ三保ゆ人ゆ出　京外

三稜社　羽衣松

廣なヘ要や三保出る所　柳居
松小帰たる事ハ小見猟所　豊竜
松ヘ〻やうるハ三稜乃茶屋　巴橋
羽衣ハ乃ヘ見るはさこのほヘまた　不言

○清見寺　実　清見寺　青茶

出手やせめて奥なる清見寺　肅山
ほヘ〻鳴のけるも林清見寺　尺忤
世や消去月小見ヘ清見寺　捷坊
眺色

青風やミ保の松原清見寺　兎賀
秋の日や浪小寄ヘる三稜の色　〃

江尻

蛭ヶ谷江尻もくこ三保の千三数　甘蔗

吐月峰

ほとゝぎす一声吐や峯の月　芳英

○宇津山　此の谷ぬ菅の細道下る比　十雲子

夏麻ゝ小菅乃細道もなりぬ　一秋

う津山ゝ馬も候ふ此の山　甘蔗

いつかしや代賀ふ子此の山、

湖水ゝ指ふ子さまる此の山　蕭山

千鳥子も小牡よ年や秋乃風　徐六

菅丹野も蒔りて雪し此の山、

年ふりて牛小子ふり菅の道、　李帝

此の山しろの石二平汗拭ひ　三風

如ゝ結八菅ゝ山なる此の山　卜宅

菅藤　菅子も宇紅の道菅子　夕徒

初雪や菅の細道菅子　玄蛾

宝暦六丙子年かぞへ　希因
のんこう寺にて拝音川元うの山　白紙
我よりて苔もるとやもるる山落ル　寵文
秋の月や雲新つまてうの山　貞室
五月雨やいなこの和尚ゆうの山　好我
旅かる弦小弱伝帝ゆうの山　非外
ひらしやんこうとうはの山　要宗
去なかく月かゆ雲ゆうの山　不言
苔桔てよく遍剥ゆ雲さうし　素外

四中
宿とりて後や四中の峠乃月　平砂

漱戸　深版
宮ゆ合や西刀の名栖打第色　懶子
百俳や秋紙深版のいそ面色　吳湖

○遠江

○大井川　山城ニ日名を

瀧曝小淵ニ落て　大井川　鬼貫
夏草ハ刈しし時　芭蕉
五月雨の底ニ吹ル　大井川
大井川ゑ縁織る柳　宗祇
大井川いさめて長ク　徳弘
いつしか稲ハ千ヲ成　大蕉
日晴て人馬ものの大井河　東考
雲の如ク大井川　柳隆
夕立や幸ヒ見ゆる大井川　蓼狐
秋ハ雲の影も宮ゆし大井河　風麦
五月雨や四ツ手ヲ貫ク乃大井川　素行
ミな月ハ惜ものの大井川　渡百
秋淋しかの大井川　爸梁
雪解や宮ゆ出て大井川　津家
雪解や宮ゆ出て大井川　素外

○菊川　星

菊川や[illegible]の菊の露　素云

○佐夜の中山　さやの中山に佐保姫　夜啼石

[illegible]の中山[illegible]の宣　梅翁

[illegible]秋[illegible]日[illegible]さよ[illegible]山　[illegible]

[illegible]ら[illegible]也佐夜の山　[illegible]

[illegible]一[illegible]秋　源帽

[illegible]　寒和

日さらでや[illegible]　[illegible]

西坂　厳隈

[illegible]　[illegible]

秋葉路

神[illegible]や[illegible]秋[illegible]の苔　松翁

[illegible]　[illegible]

四十八[illegible]て

潮の移りやすさ　天仲
山風や嵐を拂ふ川　岩翁
鹿ぬきを聞かもしらぬ　松月

日味方の原

後の月味方の原に一月哉　天仲
かりそめ味せん味方の命も　史邦
吉野山味方の原に月哉　露小

池田宿　陽谷親子の墓

秋ぬるる老母も逝也も秋と又　鼎賀
夕貝八朔親の命も秋咲ける　蕉梁

○打ち浦

一雲仕雲引列て打ち浦　也英

○演谷の橋

とゝみて演谷の橋八幡秋を　鼎賀

月の月色昔濱名橋の月　寒爽
濱名のミ空ふゆ月の橋　汀泊

○三河

吉田　橋

鵜飼ふ月色孔八二橋のうち　鬼貫

風来寺

雪ちりて六年秋ヶ地の邪　乙由

赤坂

夏の月清水ながれくる赤坂や　芭蕉

○衣川里

ふかくし衣の里色塩ゝ梁　探舟

矢矧の橋。里。川。浦

[illegible]矢矧の橋 一四

一、[illegible]二百八間[illegible]よし 九室

八橋山[illegible]寺 杜若遊の地と八橋の流八田の原まとあり 大坂

[illegible]川の[illegible]空存

[illegible]寺[illegible]亀 宗風

八橋や田[illegible]て停軒 許六

杜若[illegible]ひぬ[illegible] 不角

[illegible]訓[illegible]拾やうきつたる 名古屋 也有

橋[illegible]折[illegible] 源袋

[illegible]かきけ[illegible] 乙雄

[illegible]橋や浪うきつたる 笠麻

什物の[illegible]杜若 宗完

蒔[illegible]花画[illegible]橋八[illegible]亀 声波

折[illegible]制禁の札あり

池[illegible]杜若 素外

○尾張

○鳴海 俗里 音松浦

霄雪色寄の京をかの浦風 貞角

夏京を返しもなりし浮 大津 乙列

初秋やさしたる夕かの浦浮 曲菴

緩手に日和八塚し仲の萱 赤外

○笠寺観音 熱田寺

木林一りの笠寺の帝鄙外 名古屋 露川

笠作迄大悲の紀行 杖先 二世 来示

笠もく村うしやうる羽蜻外 平砂

○星崎

星崎乃雪ふるとも鳴鶴 芭蕉

涼まかな星崎しやう看行 京 惟然

涼星星崎しし蛍 舎羅

星崎の雪の小高の陰きも 古 蘭肝

○呼法きの涙。青月の落ちも
巨燭ちゝなる時法きぬ落ちし　信濃　涼莞

○数寄屋
帳ふしも数寄屋の里の法師　以屋　鈞壹
偽りの数寄屋乃里や つ納涼　絶莞
衣川きも数寄屋の里向ふ　花城

○鞆田宮

御例幾の時
麻石乃原ゝ法し雪の花　苞蕉
文ゝて孫宜の新や松乃月　其角
白妙きも鞆田宮乃月　龜翁

三嶽川姥屯
乃姥や羽ゝくゝ乃姥さゝ　蓮之

俗屋

ゆ[illegible]人のうたを作る伯　蕉

○志麻半

いくこの海・栗の[illegible]

蓬一つ四人の妻　蕉

菊咲かぬ八重の[illegible]　雲

戸羽日和山

眺望

[illegible]八重の不二乃根浦の玄　三千風

武浦みて[illegible]

格の江乃名殘[illegible]いと心[illegible]

○綿の浦　出雲ニ同名有

屋九文もみや陽の浦乃陽の紋　伊中　少菊

○伊勢

伊勢浦　暦　鯨　青海苔　初き　ちゝや

角ゝ字や伊勢丸神宮の宮居　夏角

いせ路の秋の目ゝぬ宋と言ふ　尺牛

世の秋や女は孫も伊勢丸　寵翁

菜名　焼蛤

蛤のやうして焼ときは　其角

菜名　小松菜の小松　山川　居

原り合ふ星も七星丸綱ゝ引　嘉元

星河

新ゝ月ゝ星河の影ゝ　乙也

枝垂き坂

歩行なる枝つき坂紅葉ゝ　苞蕉

不斷桜　白子寺本村新宮寺ニ有ル

不断咲さまでも絶ぬ桜かな　貞徳

桜咲不断桜のかゝる日に　古　常仙

咲ぬるハ

不断ふハ一月もやき桜のふ　乙雄

津　紙たをこ入

海船の天ふハ宮ゝし津のもさ　貞徳

明師　明星の菓屋　清水の菓屋氏

明星もなのけ世ふ花堂　横ヶ　雪梅

笠程て世ふ世の雅の声　水樹

○伊勢の神。天照神　・百枝松・百枝杉・あゝ杉　千枝杉　おゝ石

内宮　宇治朝日宮　外宮　山田

御殿産乃家形ゝ世俳野桜　梅翁

何の木も花ゝも花ゝ　芭蕉

太ゝ小判ゝ並べて菓ゝ花　賀角

青苔も和光乃墨の色乃如　許六
色ハ松杉乃ミ　嵐雪
所柴や面影の素乃松ぬ霞　津葉

○神路山　内宮　又高ばさしてもよし

清し曽弱冠の動き　神路山　貞徒
張人と帳みるこゝろ　神路山　乙雄
花曽ちるや都の神路山　細民
服ふ去人と色乃ぬ　神路山　素外

○五十鈴川　伊勢川　内宮

伝説ふ素ふ代紙山ぬ五十鈴川　沾徳
宮居ふたゝらし仕て川と偶ふ涼
対の秋や高ふ素ふ神路山　貞角
紅葉ふ素ふ五百枝の新ふ五十鈴川　乙由
咲ふ石ぬ文字　代ふ五十鈴川　貫太

雨宮

[illegible]あひてうらやましきの月　古志

子宝川

[illegible]　梅史　芭蕉

高倉乃岩窟　天の岩戸云

岩戸ともたきの明る神楽かな　芝一

[illegible]入岩戸乃奥や梅の花　大津　望一　尚白

[illegible]の神酒と出[illegible]　久喜　素友

[illegible]ぬほ[illegible]し神楽月　素外

古市

古市や古い[illegible]せぬ踊の郷　宗室

桐の山

[illegible]の桐乃おの山　京　吉来

[illegible]桐乃山　柳居

菩提山　神宮寺

ちるを見ては南無阿弥陀佛と多武峯　守武

山のかすみ　さきよ師走哉　芭蕉

無けしやゆるの坊ものの山ずろし　芦葉

西行谷　神宮寺　尼ちる

尼寺ハ不ラ見ず尼寺雲霧　乙由

山寺ハ古千鳥ちるこの音　〃

茶ヲ問ふ罷さくなるて清水ハ　涼佛

波ヶ嶽　阿波ニ同名の名ハ有るよし

ほゝゝよ山ハ時雨も素表　乙由

万山和や波ヶ岳河打なの色　〃

山の名ハ抱へ〳〵帰やかんこ鳥　希周

朝熊ヶ岳　金剛勝寺　一万金丹

今宵一里月ハ雲の外朝熊山　支武

ほゝゝきぬ時雨ぬ秋白し彩岳山　支芳

風ゆふむけもあまし　横山

富士見の伝て

年ゆきとの傳ふ伊勢後河　示風

眺めなる富士や結地乃一ふ島　乙由

不二見えて去花ゆきき示七乃弥　園女

鶯酔石

しら石の月世ふ所ゆき秋乃雲　乙由

人来ゆ八石も庵ゆ鶯やうゝ鳥　平砂

河ふむ石ゆけマ信国の百ふ望　象言

きの月やのくひ月ゆ鶯酔石　花子

鼎石

如今姫ゆ清ゆ鼎石　凡室

菖蒲石

ゆかゆ月の神ゆあゆ清ゆ石　乙由

薄濃の松

二ツ〳〵薄濃や後く門の松　乙由

しら〳〵薄濃ふ[illegible]ふ乃ゝ　希因

松くれて浦の薄濃や[illegible]崖　〃

○二見ヶ浦　但る接て二日名ま

岩の示神風をしもすき　貞角

蘇乃尾や吹ふけて二見潟　柳居

初ま[illegible]ふ[illegible]ゝ二ツのとうるかく　千代尼

月ハ[illegible]ふ[illegible]新ハ二ツの岩月分　蘆洲

○御注殿　庄村ハ[illegible]者

上月ま[illegible]ま草ふ[illegible]袋[illegible]拾ふ　園女

○阿漕ヶ浦　阿漕塚

[illegible]ふ[illegible]ゝ阿漕の松打さゝ[illegible]　三風

ゆ[illegible]ふ[illegible]ゝ阿漕ゝ帰鶯　源蕉

打ま[illegible]ゝ原屋も[illegible]浜の孫　乙由

細ゝぬ我も阿漕やゆきゝみ　希因
月ゝ月に藤ゝなれハ師走哉　蓬洲
細引ぬ阿漕小島ゝ後の月　平砂

○麻生の浦　溪・麻生のうら梨・楊麻
物ゝの浦ゝ比新もなしの高尓　岩鼻

○小野の溪　東月十首汐干ゝ
月宮ゝおゝゝ汐干のひゝき潟　乙由

新河ゝ月の溪村乃汐干尓、

石茶師
玉宮ゝ茶師の茶の初緑　雪爽

○霜
月ゝ出ゝ帰ゝ小ゝし宮の君　乙由

○北鹿山。於鹿川　八十瀬川　氏

[illegible]山ふかき[illegible]の蝿うちはらふ　云奴
一とせ乃[illegible]もとひらの[illegible]川　曳賀
[illegible]もさくもの[illegible]山　史邦
稲つくもの[illegible]世[illegible]めつる[illegible]山　越人
[illegible]の[illegible]きさてこの山　乙由
[illegible]の[illegible]の[illegible]山　蓼洲
[illegible]の[illegible]の[illegible]　素芹
[illegible]の[illegible]の[illegible]山　狂徒
[illegible]の[illegible]山　風舎

自[illegible]の[illegible]乃[illegible]山　五雖

田村川

[illegible]の[illegible]の[illegible]田村川　乙由
[illegible]の[illegible]の[illegible]田村の　仙里

○伊賀

花垣庵

一里八町花ざかりの道の孫うゑ　芭蕉

新大佛寺四仏　阿波庵

よ六ヶ陽ざかりし石の上　芭蕉

○風の森　赤津氏

さゝやき陰ゝ夏の津風乃葉　羽州　柳堂

○迎江

○湖。唐の海　琵琶湖　水魚　江鮭　源五郎　鮒

息せゝ帰けり唐の海はゝ　皇室

稲の鮒水の葉乃伸の草野也　三千風

空万々ゝ花吹入れを唐の海　芭蕉

湖の鮒ゝ月さゝ月ゝ也　玄来

日ゝ出ゝ帰ゝ唐ゝ　尾花　大州

新雪や陽炎の風を月の雲　を江　千那

鶴ゐるや比良の雪　八雪　京色　雲由

湖水鏡ゐるし比良の雪　少考

子規帆ゑけり出る月の夜　龍

湖乃宮さや鏡の山おろし　蕉翁

新原し湖水雪ゑ若葉時　春郎

比江のや比良の八重の八重桜　洁原

湖乃水の湖ゑや比良の雪　洁家

雪晴ゑ月八京の月雪弥　月成

陽花ハ比良の山のほのぼのと月夜の月夜　平砂

雪晴ゑ秋八鈴乃其比暮雲　丶

湖ゑ新の月ゑや雲ゑ　吐月

三日月八定庵小時ゑ月雲滝　西外

八宗ゑ月の〳〵京ゑ三井ゑ鐘　不言

稲妻ゑ法やゑ月の琵琶乃湖　芥古

湖やゑ〳〵月夜の雲　寺町

○伊吹山　郡久支波麻久比　岩金山太神宮寺

井堤下堤の底ふかし　三ふ風
ふな月の華　蛙　井堤　去来
水ぐるの蓮ふかしや　竹生島　乙由
夏草堤　草ふかし　井堤　平砂

○淀毒　舟

淀毒の焦ふ書　根可茶　素水

○入日ゥ岡

海ちかしや　ひくく入日　蜑の塩　栗堂

横田川

川越や　蜑の別　横田川　影堂

石部

ひんやりと　旅人宿　石部山　大津　智月
さびしさの　石部の山　八元　松風

○三上山　百足山　近江の名所

今も英雄の名百足蛇　不角
三上かゝる遠ひかりや時雨　柳居
見殺ハ花宴の名二度　素外

○玉川　萩

玉の井を星の影稲の因縁哉　不角
玉川も萩ぬ千月八星　春郊

○桐村

桐村と山茶花の葉の形　辰南

○鏡山

ほゝゑむ美人の姿ちらつく鏡山　文考
かゝる山とてもふるさと立雲　不角
初日出て雲のやくかゝみ山　一鼎
吹花の臭ふ臭るや鏡山　貞徒
美人ふるあとあるハうるゝ山　乙由

一夏ちりもやゆき雪とけかゝる山　素水
夕雲乃自然さうか道絶山　龜文
ホトゝしや雲ちらすなぬく清山　葵溯
雲と消の三蓋のけ清やん　竹英

不香川　昔徒毎毒を除セ不ことを
てんぢ法の神社命ハ清ち　壽角
ちくたこの歳アとう長春川　不角

○香嶽山　大上山氏
宣部ヶ原ちの家社　芭蕉
山雲ヶ原ちの清ヶ作紙籠　三千風
花雲花庵ヶ山ヶ作紙籠　同前
花ハ清ハ帰りや庵の山さう

多賀大社
三日宮ヶ　佐布嶋
三日宮ヶ多賀大社の宮外　尚白

摂社
摂社法下　摂社茶屋　侯

[illegible]なす紅の[illegible]引　不角

○醒ヶ井　日本武尊御腰掛石　かさ勝

醒ヶ井ふるとつたへなり　乙由

醒ヶ井や芽し[illegible]　丶

醒ヶ井ふ新[illegible]　清峩

[illegible]の水　[illegible]の[illegible]のそ

[illegible]水[illegible]　不角

菊ハいやよりの[illegible]一つ山[illegible]　青角

菊水の春[illegible]　辰角

○伊吹山　さしかすき

[illegible]　[illegible]　[illegible]山　苞蕉

[illegible]　[illegible]　丶

菊[illegible]乃[illegible]　乙由

伊吹うら[illegible]　帝国

[illegible]　[illegible]　青角

きりぎすの二日もたゝぬ俳諧山　孫伝

○籠麻事社　ぱぱぱぱ　踊

しき芝や籠子女の茎初記　虚得
つきもやぶれぬ籠子乃の根　彩雪

○草津　焼う候　敏　矢倉弦きせる

楽しく焼う候ふくさ菜　寒爽
焼もるこれ焼う去れるか　尚白

昨う候焼ハさくらの方こ竜　桐雨
諸人こゝ去拝中寒人焼う候　乙虫
拝神の焼しなの日う鳥よ長　辰角

○矢橋の渡

帆も人し去こ矢橋の柳陰　春郊
行秋や月し矢橋の庚こゝ舟　素外

○湖四　○去橋　唐橋　そゞろの橋　帆

我詩の皆あらしめん梅花堂　湖春

百里原にしぬ梅もあり彫田の梅　苞蕉

彫田の秋搖新月し筑山　春賛

夜の月秋半ばも彫田ものこと　、

水うしも彫田乃小橋の茶屋漏　貝角

夏代見あらしの梅ら彫田蝦　不角

寂さる彫田の中畑るかきく　貞徒

曙や彫田一節乃ものの雪　栗堂

蛍みて休む息乃彫田の橋　梅郊

一対の白鷺ふて彫田の夕日新　赤角

題の啄む彫田代なるの八月　羽州百童

月八彫田虫さるや旅の夕物涼　玉園

彫虫流れて凄し彫田の秋　素外

ゆゆしい素師堂　低石の女

蓬を見て泣うも蔵ら素海苔　不角

螢八谷

[illegible]月八景消[illegible]雪[illegible]谷　不角

○田上　山　川

夕月や田上[illegible]せる[illegible]ら　素柔

○石山　寺

石山の石の形も秋の月　鬼貫

秋の雲石山寺の乃蔭の側　嵐雪

石山へ[illegible]ハ[illegible]も曉月　風谷

石山の石も砕けぬ秋の雨　乙由

石山乃片敷[illegible]や夏の月　柳居

稲つ[illegible]や石山の石乃中、

石山の石紋も白し冬の月　帝国

石山や蔦かゝる迄[illegible]き月　亀齢

石山や裏うつる千[illegible]の原氏雪　笠秋

桔梗めも花や石[illegible]苔　素云

[illegible]ゆ砕て石山の月代[illegible]ぬ　素外

○栗津。森。路。原。里　義仲寺

木曾塚へ矢を掘へるこのしるし　清誠
早稲晩稲の刈所も人をまつを　素雲
一縄も人手栗津の苅うす　吟松

○打出の浜

嶽くも雪を重ねて　史邦
もちゐて澎湃月と月　白祇

勝所

鄙の海の玉藻かるなる海の底　稙通
花も波形の下に咲の海　桐雨
秋風も苫の屋に吹海　孰平

兼平墓

義平の家滅ぶ州四郎　曙雲
蠅ぶのせるきせるをくて高らかに　不角
そ時乃砌ぶ桜の影　素南

兼平ふてる太刀の魚　白雲

園城寺。三井の寺。園城寺　波隆

うゝ〻ゝ三井の二王や冬ゝ立　其角

御井へ行ふてゆゝ〻ゝ山桜　不角

蛇蛇蛇て鶴ゝ八潮ゝ〻ゝ冬　素角

義仲寺にて芭蕉の塚ゝ　園依

義仲寺にて

三井寺のつたうゝゝゝふの月　芭蕉

志賀。山。浦。花園。山城

さゝ波や志賀の大木の花ざかり　徳元

帰り咲や物川ゝ志賀の花　七丸

志賀ゝ桜ゝ行ゝ猫や菊花　冨雪

谷間も志賀の桜ゝ花の実色　智月

咲ゝふ白ゝの桜も志賀の色　四花

伯基れて志賀の実ゝ時雨　春郎

○唐崎　里浦　一ツ松

唐崎乃松はさくら哉みてを　芭蕉

五月雨や歩の海てをあつめ川　松茸園

唐崎やひとつ残る松乃雪　蓮之

幸崎や雨もふ島に苔衣　蓮谷

うゝ崎や氷のうくに成る松ふ　栗堂

かゝ崎や松乃雪に日の影し　春郊

唐崎や松の名ハかるみ日時　嘉兵衛

幸崎や宮殿ハ月ハ雲ハ　嘉兵衛

ゆくもやあゝゝ歩ハ一ツ松　素外

○高師　入江　浦

高師ハ二度ハ波間八八ヶ月ハ　大坂　師坡

○堂田浦　深川堂

須磨ゝゝ月ハ入ゝ海ハ　芭蕉

唐崎ハ秋ハ雲ふ旅ハ　〃

帆ハ月ハ海ハ月ハ　貝角

姫路城　姫路城の白鷺や冬の月　暮雨
薩摩灘　薩摩灘の海の霧乃深山雲　汶上
月明れて高砂や深山雲　爸楽
永書せを今宵面の浦の月　赤外

恵津

うら紅の恵津ふ高砂の時雨　柳芝

比良の嶽。淺。浦

山風ふしのゝ高砂の色　京　蕉仙
風雲や時雨の比良の雪　丈竹
杉ふるて
神垣や四方の里の湯の煙　青木
英清水八宮ふれて比良の雪　仙崖

。大津。里。濱　西　竹　等盤

大津西や笹の戸ふ何仏　苑蕉
かゝゝ大津乃雪雲ふ　仆我

ホトトギスや大徳八丁目の庵　田室

蟬丸社

琵琶の音八月の風のつよき花　衆賢
蟬の声多賀の里来る人も見し　不角
しらぬ人琵琶の海の小船過ぬ　湖帆

○冥の清水

眼へ香て鼻へ入る涼しさ　不角

淑乃月は細めるる清水かな　多賀

○桐坂山　冥　冥路神・弱道

弱心久逢坂の関也　宗雪
おもはゆや花乃梢を車道　智月
逢坂て夏を忘れ乃雲雷　支考
鶯ハ夢似る人ハ夏ほゝ涼　青牛

○涼し清水原　一説ときぬの原に

菜の花の深草畑の蔵しぶり　辰南

○山城

京　織物　染物　紅粉　白粉　扇

花豆腐の郭の酒屋かな　京　武
紅の小梅の鉢の鉢花かな　京　高政
京の居て京の月や杜宇　苞蕉

花の織衣郭の屋しき織姿　京風
郭色の梅の香の昏るる京の宵
燈や掃濯れる京の流れかな　京　梅洞
静さや二条の河原の夜　辰南
月色や洛陽の寺社強なく
九条の京の河ぬ雪の原さかな　玄果
郭ふる信濃の角力見
小つぶれの東の花の無乃伊の　雲黄
猪さくや郭の牛の北角しさく　西堂

一条や九条の九條神社　矢俣
都なれや麻乃宮よりきこゆ　古　佳涼
上京ハまこと華やかなり　柳居
除物ハ京の上ゝ澤のもち　宮雪
まゝ豆やはたゝ京の俵中麦　那外
風やまの向ふまこと向ひし山　尤廉
夕栖の鶴ハ宮ゝ　十三歩　乙雄
月ゝ月ゝ月見あるゝ京の山　書梅
月秋や大堰白き　京乃川　花徐

扶ゝ人ハ人やゝふ京の春　西慶
傘ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ　夢太
第四月見月ゝて　京の町　赤芳
京見ゝ京ゝ京ゝ紙ゝ　花蜜　卜人
四ゝ月殺生宿ハ　村内面　津家
陰ゝ廉ゝ元て　都ゝ秋乃メハ　ゝ
海中ゝ　赤外
上ゝ乃ハ男ゝ　踊　ゝ

相國寺境内の佛とん光嚴院創建なりし云
ひ秋や佛ふ帳帰相國寺　寒夏

耳敷川
ほとゝぎす聞けゆゝしき耳敷川　京　常信

四条　河原　仮橋　笠居
笹刈の四条河原の仮橋面影著ふ　京　笹秋
秋の新雪ゝ見る刈納涼ふ　涼袋

捨せハ捨ふゝ邪と蛍の河原　兎言
夕立や四条河原五人ゝ　婆百
四条合ゝ居ハ四条乃川東　百史
夕ゝみ浮連ハ四条北岸や　宜雲
寒月や四条の橋ゝ神獨　蝶夏
曲ゝや伸居ゝ夏の夜河原　雲克
新見や風かけめけゝ四条川　荒聖
ゝゝ秋や四条ゝ百ふゝ　素外

五条　橋

千人乃為探手小橋すゝ　攻南
蘆乃れ五条し涼し　橋の月　文考
蘆乃の五条ゆ面て芦良角分　乙屯
久能や今小庵ゆ有て　涼帷
者多小今月や蘆乃ぼ表　素外

壬生寺　女芳地義菩薩

壬生小志の家ゆる人や地蔵　京　域之

奇よまてたろんのふ壬生の毛　砂之
楊梅の比ゆ人也壬生ゆ猫　乙屯

朱雀

加多能隙よ朱雀の宮ゆ神叩　清家

海原　出にの御所

ゆしゝ六西の光ゆ高人毛　攻南
海原の外し隙ゆ高ゆ豆　鳥　風雪

若草の里の夕雨　桐雨
焼めせ柳ふるゝ人　歌藻
花ちせやいつれ初子の中　絶竟

東寺　羅生門　西の京

昔ふり柳も花をこぼすつ　信安
萬代や京ちの塔乃ゝ焼　宋迪

笠置寺　笠置寺　恵弘　天王寺　天王寺の京

早乙女の時方かはしる　笠置　如英
焼付かゝれる雉の声　高野

井堤　山吹　里　楽焼　河　玉水　玉井　玉川　蛙

山吹や咲ちる蛙ハゝの底　鬼貫
ゆゝしや蛙ハ底ふて田蛙を　乙由
蛙ちゝ入ゝちゝ世ふ山ふ世ふ入て八ハ　田室
笑やめを山吹ふ世ふ　柄杓井戸　絶之
菜のもや何ゝなゝ井ふの里　宋明

武川や蛙の名もなつかしく　蛙哉
山吹や流るゝ枝に　蛙
名月や陸も井出の玉藻哉
りまくや井堰ハ蛙の初ゝ
川ゝ井出の蛙うゝ　君香
蓮華や井出の名ゝ郭公　仙里
山吹よ蛙盛者行　井出の里　風舎

○笠取山

杉菜の笠ゝ知る山路哉　勝政
時雨山ゝ名ゝ　嘉章
名ゝ時雨ゝ山の月　彩雪

○櫂河　橋

小神祠め櫂河の稚児ゝ　力麿

○宇治　山川　橋　山吹の風　氷魚　網代　茶

夢ゝ宇治川ゝ　伊口

里人の屋ねふき替る梅の哀　梅翁
石垣や小竹の若葉の根　維舟
伊勢武者の網代か廣紅葉　行好　正好
山吹や宇治の橋姫の白小袖　芭蕉
うこさぶ合戦なり小雨雲　許六
網代守宇治の名所聞ふる竜　丶
恵ひろく奉ぶせて網代守　如考
川瀬や柴を積加減　貞角
勝手なる網代守　小李

永の上ちかき紅宇治の雲葉　青城
淋固ひとはやふ迷て宇治の淋雲　古祇亜
美小竹ぶく鶴小宇治乃蛍ぶ　蓉狐
あし蛍山吹の淋小ひ竜　永祇
宇治川や鶴鳴き蛍ふ　百壽
若鮎や　波乗乃被あも　丶
卯月末て青蛍ふ別宇治の里　羽別　去蛍
紅葉や宿しもせて宇治ふ家　不遜
月ふ宵宇治八人ふ多き場ふ　松笠

ほんのりと旭やゆかし宇治の茶　太布
見やはれ人の花見を菓子舟　律家
五月雨や渡ると見るも宇治の川　宜舟
川霧やとりて兼ねる宇治の橋　雪風
山城の氏を何人問ふ雪　桔梗
橋抗もゆめく宇治の茶外　貴天
宇治川や深ぬ恋ぬる新　露晩
名所八雪も絶しし宇治蛍　彩雪
夕めや宇治の郭乃伝をつ花　素外

仮時を形を刻る涸代也、

旭山　名の通り日名也

帰花入月や向ふ旭やま　貞徒
あ[illegible]る扶の月やなて旭山　柳居
月海苔菓子芝ゑる旭山　素見
菓子不見花一時乃朝日山　秋方
言ふ上ける新る山　素外

興聖寺　いつの石垣のとこ山ゆえ俗に山んの御と云
山ゆや寺石垣の苔ぬ御ゑ　貞徒

英雄山萬福寺　唐僧氏　錦絨宗
はるゝ〳〵乃あり〳〵の色素　鬼夏
寺ぬ月見めりろこをまゆ之　素外

西方寺　伊勢氏帝の寺と云
薩仏や菜屋ぬ市の淀氏帝　津宴

通り茶廊
面白の扇巾小包玉屋外　紹波

平等院　扇せゝ
紙婚めゝ〳〵扇の芝小玉屋　京　春可

伏見　山・沢・路・里・津　三十石茶舟
扇屋銭　千石太　唐うし
明てゝ見ゆゝ伏ゝ人や梅の色　嵐雪

伏見人庵雲水売買把手の名
月と見る井の二枝は伏見哉　秋方
青竹や新り伏見の柱守　蛙鳴

城山　日示　松

地よりと城山梅雨の名月　露沾
城山小紫の名月小六月　山店

油掛地蔵　日示　西蓮寺境内に

なすの茶屋油かけ地蔵　任口

○蓮の森

名所の蓮八地と掛る蓮の歌　一鼎

○深草の里　山。路　保牛焼

保草は経るやいなぬ蝉の声　大坂　休甫
深草の家々鶉の玉は床　京　之浦
後世ハ姫罪作保ケ乃鶉雪　百雲

深州の義ふむせてや時鳥　絶竟
古寺ふけゆく月のなるなる深州や　素外
おなじ題
深草乃野ゝ人しるるやもの哀　絶景

曙光寺　法華宗なれば加茂の祭
箱のもの新加茂小原や秋の色　兎爽
元政養母の墓
清の間ゝ清めぬ数あるは乃露　祇空

○稲荷山　三ツの社ある大・さるしの形　ゑ船
稲荷の山箱の酒も移ぬく　正種
社地伊勢ゝ　比叡若葉時　吳朝
春山二月の仏をいなり山　秀信
彩梅やちらぬ稲荷の山　宗梅

東福寺　通天橋
紅葉ふ山のしろハ西日谷　何外

行雲にしぐるゝ日やうつる橋の上　輕舟

大佛　方廣寺

大仏のうしろ姿の雛の琴　宗瑞

大仏乃眼もとまるや花曇　一巴

大仏の耳ふかしかきぬ　龜仙

大佛の優なる山茶や雪の宮　百芳

耳塚

耳塚や大仏殿の行ゝれ　陳蒙

三十三間堂　大矢数　社若

宴の文花乃矢数や　社若　帝国

豊国社

切ゝ子ゝる蘇鉄の葉に乙　李白

秋ゝ雨ゝ代ゝ生ゝ一ゝ常ゝ苔　一狹

○鳥羽殿　山

[illegible]　定俊

[illegible]　蓮谷

[illegible]　小春

清閑寺

堂[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

○清水寺　清

[illegible]　[illegible]

[illegible]　天亮

清[illegible]　柳葉

[illegible]　[illegible]

[illegible]　日金　乙雄

[illegible]　[illegible]

清[illegible]　[illegible]　[illegible]

音羽山　音羽瀧　山科二月名の名所

瀧奈[illegible]　京　[illegible]　宗政

[illegible]　河内　[illegible]

[illegible]　太源

ほとゝぎす宮地嶽詣の京　弟国
芋やの山とまちの一歩　旭　貞佐
滝戸橋の糸とまなく白き　清々
指鉢の花々指す山　亀路
ちる雪は滝の水浴るや羽山　嘉雪
流のもとの梅さくあて　如英
紅葉ちるさき色羽の山大工　清雪
清水の滝乃ふるや雲　芳外

地蔵社

地蔵かゝ小乃月見の茶屋　雪佐
京中へ地蔵の稼や夏の蝶　貞角
山地蔵小二階へよりさゝ外　貞佐

田村堂

田村堂の彩る色日の村村面　京　憲秋

車舎　馬廻停

遠くまで霞もとまらぬ春の花　景善
雪の花　仙風
雪まつぬ年の明方かせよりて　志外

八坂の塔

ホうしゝ八坂の塔八重にたつる亀　百尺
ものや花八坂の塔の撞く鐘　素竹
塔なるや八坂の塔の曲り　素外

安井観勝寺　縁起に此の地ひゝ者今我聖義せり
人の眼ふ力ものれて春の花　二ふ風
時ものゝ安井の花　恒人

霊山正法寺　徳善院塔中各かゝ中郷
塔ゝさや山の二階の四方の緑　校静

双林寺　右ゝ同ゝ
名月や脇ふ持ちるひゝ山　文考

金山安養寺　在同一

まる山のもとや多くの御帽子　義樹

○祇園社　千本の桜

白し屠蘇天も地もてる鶴　雪竹

紙や人と祇園林の正月　京　正昭

若木の神も仏やおわす舟　筑紫　牧温

祇園林帳の大祓の納涼　久左　三風

祇園の筆色彩り色雪　中長

桃の果廊　ものとりて世をうる夏の夏もまた春一

桃の果もまた新しもの時分小　晨雪

今も名残紙色の花のお夏合不祝　青城

二軒茶屋　中村屋　春屋

俳諧さ紙ぬぬの新色豆腐切　乙由

七夕ぶ夏ぬや紙屋豆腐切　秋湯

紙ちや花の外ま八二軒茶屋　光子

東山　東の山々の事なり

蘭塗なる谷の梅やひらけ山　風雪
車ふる花見と見る色ふる山　貞角
花の香乃盧空なる春の東山　正秀
結搗ふ花の薄紅ひら山　甲斐
花ぞなる月ハ蓮色ぞ山　赤竹
香蕚ハ白湯ものけ東山　直雪
花と踏ゝ七ツ九ツ山　子角
ぬりつゝ宵時めけり東山　赤人

梅ゝ花ふる三ツ五ツ東山　仙里
ぞ山さくらも雲ハ花ぞ　花蓬
月ハ雲ハ乃ひら山　赤外
後ハ世紙屋清水もの雲　雪吹
石階の紙屋清水乃雲　淡々
櫻雲ハ紙屋清水もの雲　赤外

知恩院　本堂の彩ニ寺金華ニ大工の左甚五郎作

鶯ぞ鳴のひゝ人　梅ハ咲ふ色　信徒

○花山。寺

花山ゝもやの弱し所同　重以
ものやかゝりやゝ孫紙の唐素　京　則常

○栗田山　栗田口　洛上のゝ　焼物

提灯よ洛上のゝや弱し人　許六
栗色地ゝよりやゝかゝり出る　不角

奴茶屋　茶屋し矢紙飾り壺

弱栗　黄徐ゝもや奴茶屋　昌夏

日光圖　千本松

雪月花　月の色や四方ゝし　古磨
月の色ゝ　ゝ弱き牛の舌　正秀
日光圖を絵てもそうぬ　希周

○岩倉山　日谷郎の四方ゝ

岩ゝもものゝ　ぬ乃四面　氷花

南禪寺　湯豆腐茶屋

寺の名もみな栗乃葛湯　龜齡

○神樂岡　吉田

雪もけさ降もて白う神樂岡　扇良

○白河　洛今宮一山を石とする

白河の邪もなつけきの秋　伯兎

○比叡山

淀舟世ふの行幸比叡山　但る　雪勝

大文字山　如意ヶ嶽

山の紅葉雲みもなくやたくもよ　嵐雪

○北山　下加茂　賀茂川

賀茂川の白波川　言成

帳の色せゝのかゝ河　葉冊

か岐川や日光の宮ふ行あらし　玄来
か岐りの野路の時雨ふる日　貞南
七夕やかも川こゆる牛車　風雪
なやめ野路の仏像人ゝ　、
ミくしやなの八幡と年忘　素堂
か岐川の一筋ながし　風国
神の矢の宮ゆゝの前　桂宮
ふる帰路乃三稲やかも堤　葉扶
春の日の水音ゆゝ九月　柳居
　　淡ゝ

初雪や河原の見ふ大ゝの字　宗湖
紀伊国の山本静けし紀川　春郊
芋洗ふ見るも紀の川すみ　絶亮
玉川ゆゝも更ゝか岐川　貞英
矢ゝ川や雨乃晴月紀川　南アル　芦皓
水ゝや尾ゝ越ゆる野河原　小知
下か岐や人を休乃ゝゝ川　小丹
ふゝしやまゝて河の か岐河原　素外

○矢脊里　河

みち結ぶ山ハ桂の里　寂齡

○大原山里　川・炭竈・大原木

大原や蜩の声ハ聞ゆ　丈艸

那ぞ憂き初ゆ大原乃里ぞ　英角

○臨の清ら　同和

世ハ刈ぬ間へと鶴の声ぞ　乙由

金閣寺

殘りなく古き世ぞ寄る　跡公

むらさきの小菊ぞ寄る　地旧

北山　松茸

小山ゆ旭の弘へる若葉哉　五聯

○鞍馬山　寺・九折　不芽渡

花咲を見かゝせもせず鞍る山　紅元
花見るも神なる尾よ山櫻　大坂　幸勝
無ゝよ京なるやもせず水流の鞍る山　京　仲勝
三日月と弓張月と海と見るも鞍る山　梵益
うゝと見よ公乃鞍やくゝまし山　柳居
草枯小鞍るの見えぬさうき　素外

。岩倉弥社。川。山　弥生尾

水ゝ八色ゝ弥の移よ行逸　雪高

。比叡山　郭の不見。　我立松　▲孝八山坂
山の京や一四見櫻みはの風　貞室
月校ゝ吟のゝさゝ弥ゝ　言小
言根ゝ弥ゝ弥ゝ見むゝ夏乃殿
冷小ゝ孔根松中堂下幼原　一孝
五月雨や九ゝ京見ぬ比えの山　ゝ風
大月校や一ゝ孔ゝ一孝　芭蕉
星合ゝ双林塔乃松のゝ　史角

思ふこの吉野や四月の雪の降　文世
初もやきせるれ生えるこの山　松宗
野蕨れ我ら和の八重若葉　乾什
小家より日陰や時雨葉蔭　素人
比叡おろし皆高見かしの　律宗

。横川▲諸書に近江に出る方角鈔に倣

初雪や横川の移れる方一　千那
皆ふ皆ふ横川も手菜什　吾仲

。長等山▲右に日しし
秋あるしや時の後雨も葉紅　正秀

。加茂社。二葉山。日陰山
。時雨の句多く八下が茂の皆共紅の示に等
花葉もやとんとん神楽　貞徳
卯の花やいうれの伊示が茂諸　笑角
雷乃か茂八幡しらしら　宗陽
上野の世と法の月の　平砂

○小師の庵・炭竈　矢脊の道にもかゝる山とかゝる

年玉小梅折小枝〳〵を箱うゝ　言水

炭竈也望厨小路〳〵雪　若捷　舍勝

精猴うゝ蟠蟠の月　擣广　清之

さし〳〵や烟ゝ小路〳〵夕梅花　呂橋

○招小町の墓　市京師近傍の寺にあり

陰ゝ帰小町〳〵小町の梅の花　千春

春時ハ梅の折〳〵ゝ雪　帝国

降ゝもたゝぬゝ小枝〳〵ゝ　素外

○氷室山　氷室守る

花の雪ゝ根ゝ氷室山　好道

代〳〵ゝ根ハ樹ゝ大や氷室山　春郊

帳ゝ外人倫ゝ〳〵ゝ氷室山　素外

○松岡山

漁夫ゝ松岡ゝ山乃岩清水　拾洛　入重

○紫藤

紫藤ゝよる素盞嗚山や 桃梅 越津 常之

曙のうゝハ苔ゝ白ゝさ紀哉 不蓋

○標野 大和国

立めみゝ結とゝ夏ゝ草ゝ藤 一音

春の海

春の海ふゝせきあゝらゝ 名古屋 後凉

春の海紀尾ふ向し初さゝら 帝国

○雲林院 京志賀

雲(モノ)林院の春ん中 越津 西次

蓮華蓮野

仏の法むいゝ面や蓮華蓮野 花蓮

○北野天神 京坊 一茶坊 千代坊 新向坊

梅をうゑてあるゝ山の麓のゝ　言水
木の葉かゝ西ゝ高き所の雪や　乙由
涼しさの袋屋川の（名古屋）　〃
神ゝ梅さくころ後ゝ雪の　洛々
神垣の月や雪乃一歩　紙叶
年ゝ川やゝ後ゝ神の場の松　信栽
梅封して北野八重小松乃雲　五穂
此神の伝おひ松や此神まゝ　宿帝
初春ゝ川やゝ小松の陰　宝馬

菜の花や遠ゝ向きこ市住吉　陳家
松陰ゝ子ゝ宝の雪ゝ夏姿　素外

○紙屋川　仁和川氏

水のゝ底ゝ雪や氷乃紙屋川　山水　成美
蓮の影の陰や廉や（名古屋）紙屋河　名古屋　清親
梅ゝ花六月西傳ゝ紙屋川　信徳

○平野社

原平地横臥しや神の場　不釜

○双の岡　一二三と三つの岡並ぶさびしの池

連れもなしひう岡比雨義　永利

○鳴瀬川　祝石

鳴瀬の名ふやせと合ふ郭公　如雪

鳴瀬乃世乃しら揚とぬ名ふ　上徳　也川

○鷹澤

鷹沢八月ゟ里外の鳴を鳴　倚舟　六水

鷹澤や休めよ他の目　笠秋

○浪山峠　京。山。里　祝石

岩間や宮八浮世の浪ふの鈴　紙舟

余岩ゟ浪ふ岩ゟ二つ岡　言水

嵯峨中の林　さこてゝ嵐ふ　嵐雪

林さの急ふ分くぬ鳴ふ　雲英

小浮城や町屋打絶て漁の声　文竹
むつまじや浮巣ゆるぐ蛙　尚白
浮巣とは見まじ水ぬる沼の花　荷今
山秋やいく筋宮ぐさ浮巣の所　瓢竹
西東いつれ巣ぬる蛙哉〳〵　東湖（陸奥）
さゝの葉に候ひたるて十三夜　沾洲
尾花ふも雪の笠やさうの所　柳居
地ふて浮巣や巨燈の切所　沾涼
今朝の秋ヨメアの秋ヨ浮巣の奥　芝秋

浮人も来きて浮巣哉〳〵　風舎
浮巣も一枝沿ひやさうの秋　文果
遠くゝ見ふ来ぬ浮巣の色　素外

○跡〳〵宮・笑の垣根　玉水の名所

跡〳〵を結ふ蔦なり宮　芭蕉
うせもしるて玉水の名所　乙由
みゝ〳〵の音ぬ鳴ふ月の眉　信芳（信芳）
の〳〵の字ふ鳴ふ〳〵つゝ　竜士

夏山の木の葉をかくす　常周
時鳥鳴くなる声は聞ゆれど　源貞
姿をかくす秋の中なる　素竹
ホトトギスなく音の秋　後河　木児
引入や松も秋の来て小栗栖　上野　雲扇

千代の古道

絶えぬ色こそ千代の書屋に見せ　柳居

天満宮

名月や雨降り降りて天満宮　貞徳

湯殿

大学寺の内四地不詳
木くしも後てくれ久しき湯の音　素外

釈迦堂　清涼寺

一口ずつもおろの鮭と釈迦　一狄

妓王寺　往生院と云

花遠の髪ふ撥ゆる蕨の那　帝国

。化之路

ゆくしゆや浮世の春と朝嵐　徐九

。清流川　反橋

清流や波ふちるゆむ玉柳　芭蕉

清流や混稀さうな我心　史角

清流のゆくしゆや夏の雪　茅渟

。愛宕山　大横坂　朝日岳　日暮岳　天狗投　称　樵　滅峠

緒を愛てちるとゆ春の糸　北花

はるふ丹波人ゆ山行　古　伯涼

岩栗や也原坊の松ゆと　宗鶴

刈残す山ハ也宮也みの月　涼々

法言ゆ夏の日暮の行　絶覚

止めハ浮ゆ月の坂やゆ　存我

珍しや蚊も試乃涼み哉　沾涼

那也麿不も若葉の深緑哉　素外

○槙の尾山

朝きりの家をとやかり秋の雪　風玉

○高雄山　紅葉

色附し尾やふりけりたかを山　信徳　則次

入日の嵐にも燃るもみぢかな　淡々

稲妻や也むらしたかふに高雄山　乙雉

○大井河　首路川　西川　其・鮎

あのつ眼に涼しの浪鮎大井河　維舟

雲とけや月日に筏も大井川　文足

○嵐山

嵐山手際咲る花や好みにふ如　清親

六月や峯に雲置あらし山　芭蕉

のゝ宮や花の山ゝ嵐乃山花京　吳湖
末てゝ見ん桜山ゝ嵐山　京芹
秋風の名ゝ残ゝ山　乙雄

小倉山　定家卿山荘の所

小倉山峯の桜乃陰ゝ星京　好況
立ゝ寄ゝ奥の嵐ゝ小倉山　知石
夕雲や秋ゝ鹿ゝ鳴ゝ山　二角
ゝゝゝゝゝ宋の外ゝ小倉山　紹波

植ゝて深ゝの中ゝ桜ゝ　素外

二条院　四条

小ゝ山ゝ月ゝ花ゝ二条院京　定治

西山

ゝゝゝゝ西山ゝゝゝゝ桜陣　竜明

花の寺　橘元菴ゝ云　西行桜

誘ひ来るこゑにしをれる　小丹
群鳴の葉静かなる松風　京外

○大原野　山。里　小塩山の下也

降雪して思ひ出づめ大原人　光豊

○井田　吉竹ニ在。里。京。河原　東竹田
西井田

深井の新田の新井田の里　京　重吉
見るゆゑて井田の里の時雨　乙洲

○鳥羽　山。里　上鳥羽　下鳥羽

里ふるて鳥羽田の稲を刈乃　京　梅盛
見て帰けるとて狩帰る祝、
京入や鳥羽の田植の唱中　左馬頭　重定
牛もなし鳥羽の田植の唱　卯七
歩なるぬ鳥羽の唱時　一髮
鳥羽の唱時　平砂

○秋乃山

常康八幡や亥の時秋乃山　各古歌　正重

○羽束師の森　羽束師社

名月や池うつしの面影　我尼

一陽井のぬし男ひとりのはてもの一今の名不れ発句とあらめ冊子ふ殺るとし命を惜て
かゝるべきの求めきるうけれハ、ふ〳〵ゆく〳〵なるかく〳〵
年ちゝ歩くめるる者咲翁の古風をきゝひ拙きとゝ
終をうぬをりの余にみやゆゑなんこゝ
なりりハ面しをくゝらしく作る

きりゝす杜ゝて梅や柿もち　葵園

○山雾　離宮八幡宮

山滝をしりやゆ苔ひしの仗　拘律　政次
ちゝゝゝゝや雾山滝乃陣恩　京　文都
山雾ハ淀ゝ翁天ゝ郭ゝ　洛富

宗鑑旧地　井戸あり

宗鑑う刀えぬハ杜ゝこの杜若　古　秋色

宝積寺　たゝゝるゝ云

ぬさ打し腰や伸して京立 京 茅原

木食寺 観音寺と云

とゝ梅や木食の科記人 史邦

○狐川

舟竿や凝こゝ〻狐川 堤 吉重

藁菊の実や積て狐川 正次

○淀 ○里 ○路 ○渡り ○伏見車 曳舟

郭公俗やゝ淀乃ゝゝ車 梅翁

白雲の上ゝけ立まひや淀の水 言水

ほゝきに知多も助ふ淀堤 京 保友

五月雨小淀引手やゝゝ車 徳懐

ほゝまき淀乃見た所ゝ 信安

淀舟や夏の今来る山ゝゝ 雲英

京北中小何やゝゝ見る水車

川風の高瀬苧麻ゝ水車 脇 京 曲翠

五月雨や菖蒲ハ何ゝむ淀の人　敏石
淀舟や唱ゝ歌ふ立ち去る　古　立志
淀の泊り雪うち晴このふ　古　承野
淀の秋ハ月夜ゝ柳ゆ　古　芝濤
淀舟乃ゝ立や菖蒲ゝ葉ゝ　乙由
柳ゝ木の淀物ゝ少やゝ秋きぬ　柳陌
秋月ハ淀ゝ月や淀乃塚
淀川ハ流ゝ出ゝ月や淀乃塚
初鮎ハ淀も同ゝ流ゝ　希因
淀ゝ流ゝ　涼紙

淀川と減ゝも流ゝ春ゝ　春郊
秋ゝ多ゝ流ゝ秋ハ花し淀の水　赤蘭
五月ゝ秋や舟ゝ多ゝ京の山ゝ多ゝ　文果
淀ゝ月ゝ月ゝ淀乃湖東　露小
舟の秋や月ゝ流ゝ淀の夜　赤外
月ゝ淀の流ゝ流ゝ夜
大橋の下乃灯ゝ鄙ハ通ゝ私の助なりし
朧ゝ月ゝ大ゝ淀の秋　古　鄙夏
秋霧ゝ灯ゝ淀ゝ淀の秋　古　沾涼

○英宝。所牧。森。郡。里。坂　甲斐三国名所

月光寺や鼻より英宝の示現　孤也
暮雲や英宝の郡牧乃玉流川　示衆

○水津川。泉川

まつ山や水津八河原紅葉　柳陰

○八幡山　八幡宮　男山　雄の滝　数生川
月打竹

八幡山も山雄滝の巌つたふ　雪幕

水くも山や昔男やん　松洋　三章
清きそそ滝小あめくもの坂　北麿
麦畑の茅もいとそそ男山　涼徳
筆やとか月打のとそそ山　北義
偈仰をとかくそ山や石清水　清象
さけもそそ山も男系神の月　素外

秋風女郎花の塚
若狭や八幡男山　蓑狐

名所方角集乾之巻